

2023年5月19日 第3430回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
<斉 唱> 「我等の生業」 ソングリーダー 佐久間博一 会員
<ゲスト紹介> *横須賀市立うわまち病院 院長 沼田 裕一 様
<ビジター紹介> *三浦ロータリークラブ 会長 奥山 浩司 様
" 60周年実行委員長 鈴木 康仁 様
" 会員 二塚 雅則 様

※三浦ロータリークラブより60周年記念事業のご案内(6月4日開催)

- <委員長報告> *地区青少年交換委員会 勝見副委員長より
2024年夏出発青少年交換学生募集について
*ピンクリボン運動実行委員会 加藤(淳)副委員長より
ピンクリボンよこすか講演会 報告
<幹事報告> *第12回第1グループ会長・幹事会 報告
*第10回理事役員会 報告
*ガバナー月信 No. 11
*2022~23年度地区大会報告書 受領

<出席報告> *出席委員会 田村副委員長より5月19日出席率報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メークアップ数	出席率
115名	103名	72名(7名)	31名	7名	76.70%

<ニコニコ報告>

- ・三浦ロータリークラブ会長 奥山浩司 様、60周年実行委員長 鈴木康仁 様、二塚雅則 様
横須賀ロータリークラブのスポンサーにより60周年記念を迎える事が出来ました。
ありがとうございます。
- ・比 護、梁 井、藤 村、松本 惲、加藤 惲、永 井、松 岡、福 西、
長 島、前 川、勝 間、齋藤 眞、佐久間、木 村、上 林、白 井、
猿 丸、徳 永、江 口、濱 田、谷、土 田、萩 原 各会員
横須賀市立うわまち病院 院長 沼田裕一様、本日はお忙しい中横須賀RCにお越し戴
きありがとうございます。卓話もどうぞ宜しくお願いします。
- ・三 役 三浦ロータリークラブ会長 奥山浩司様、鈴木康仁様、二塚雅則様「創立60周年」
おめでとうございます。本日はよろしくお願ひいたします。
- ・椿、石 田、大野 惲、南、新倉 惲、八 卷、齋藤 眞、岡田 惲、
八 木、小山 惲、福 西、飯 塚、根 岸、 田 邊、白 井 各会員
三浦ロータリークラブ会長 奥山浩司様、60周年実行委員長 鈴木康仁様、
会員 二塚雅則様、三浦RC60周年おめでとうございます。記念行事のご盛会を祈念
申し上げます。本日の例会もごゆっくりお過ごしください。
- ・植 田、角 井、小林 (-)、石 田、松 岡、杉 浦、児 玉、前 川、永 井、
勝 間、齋藤 眞、白 井、田 村、澤 田、濱 田、根 岸、岡 各会員
Black Tokyo 代表 Eric Robinson 様、(株)M&Aプランニング 代表取締役
権田理司様ようこそ横須賀RCへ。ご入会おめでとうございます。共にロータリーライ
フを楽しみましょう！
- ・エリック ロビンソン 会員 Thank you for Accepting Me! Best Regards!
- ・権 田 会員 株式会社M&Aプランニングの権田と申します。入会させていただきましたありがとうございます。
ご指導いただきたくお願ひ申し上げます。
- ・2番テーブル物井丸太一、梁井サブマスター 5月12日、ホテルニューポートヨコスカ「SALUS」に

て2番テーブルミーティングが開催されました。「SALUS」の美味しいお料理と高橋会員差し入れの高級日本酒、楽しい会話を堪能致しました。また、前田会長、長尾副会長、瀬戸幹事、兼城SAA、角井副SAA、三宅さんにもご出席いただき、総勢16名のテーブルミーティングはあっという間の楽しい2時間でした。長尾会員、いつも「SALUS」でのおもてなしをありがとうございます。なお、会費の残金についてはニコニコボックスへ入れさせて頂きました。

- ・児玉、長尾、江口、土田、兼城 各会員 5月12日、ホテルニューポート SALUS にて2番TMを行いました。美味しいお料理と高級日本酒を味わい、会員親睦が深まる楽しいTMでした。物井マスター、梁井サブマスター、長尾会員大変お世話になりありがとうございました。
- ・長尾 会員 5月12日2番テーブルミーティングをホテルニューヨコスカ、サルースにて開催いただきありがとうございました。
- ・8番テーブル勝見マスター、小平サブマスター 5月15日に8番テーブルミーティングを開催しました。長尾副会長、兼城SAA、三宅さんにもご出席いただき楽しい時を過ごしました。美味しいお料理、西村会員ありがとうございました。
- ・植田、大野、山田、長尾、兼城 各会員 5月15日、よこすか平安閣にて8番TMを行いました。美味しいお料理とお酒を堪能しとても楽しいTMとなりました。勝見マスター、小平サブマスター、西村会員大変お世話になりありがとうございました。
- ・3番テーブル越川マスター、田中サブマスター 3番テーブルミーティング5月15日ゴルカパレスで盛大に開催。ロクナト会員ありがとうございました。又、副SAAの角井さん代表して出席ありがとうございました。
- ・角井、渡邊、鈴木、中村、小山、佐久間、上林、八木、谷 各会員 5月15日(月)、ゴルカパレスにおいて3番テーブルミーティングが開催されました。ロクナトさんのお気遣いで食事もお酒も大満足の会となりました。越川マスター、田中サブマスターありがとうございました。
- ・鈴木 副幹事 現次委員長会議お疲れ様でした。次年度よろしくお願ひ申し上げます。
- ・前田 会長 昨年暮れから左脚の痺れの原因になっていた手術を来週受けることとなりました。今年に入り4回目の手術となりますが再来週には例会に復帰する予定ですので、来週は長尾副会長に例会運営をお願いしています。ご迷惑をかけますがよろしくお願い致します。

<卓 話> 「うわまち病院の軌跡と新・横須賀市立総合医療センターへの期待」

横須賀市立うわまち病院
院長 沼田 裕一様

私は日本人ですので、アメリカ人のように最初からジョークはできません。皆さまにジョークで喜んでいただくというような芸はありませんので、多分話の内容も面白くないと思います。お許してください。これまで「うわまち病院」としてやってきた足跡と、新しい病院のことを紹介させていただきます。

まずはこのような場所にお招きいただきましてありがとうございます。私がおちらに来ましたときに当時の沢田横須賀市長さんがおっしゃった上手なフレーズで私は、驚き感動した記憶があります。こういうところで仕事ができるというのは、非常に嬉しいことだと思った記憶があります。この写真は嘗ての「国立横須賀病院」です。一番左上が不入斗、右の上が中里に、そして左下は現在の国立病院の写真で、東側に白い枠で囲まれた部分のところが追加されて新しくなったところです。国立病院というのはご覧のとおり、周りにうっそうと木が生えた療養所と言われるような病院で、初めて国立病院に入ったものですから驚いた記憶があります。「国立横須賀病院」の前身は明治24年に「横須賀衛戍(えいじゅ)病院」という名称で造られました。衛戍病院というのは、陸軍の駐屯地の兵隊さんのための病院と書かれています。それが「横須賀陸軍病院」になり、終戦後、厚生省に移管されて「国立横須賀病院」と名称変更します。国立病院は一般医療を基本的に行いません。一般的医療は私的医療機関あるいは公的医療機関が行うというのが常識です。ところが戦争直後でしたので、国は国民のために一般患者も診療しないといけないということで、昭和21年の12月に一般患者の診療を開始します。いろいろ難しいことが起こり、非常に経営困難であったのだと思います。そういうことで昭和60年に1回国立病院の統廃合が行われ、3つぐらい大きな病院が公立病院として国立から公立病院になったという経緯があります。1980年代になりもう1回国立病院を統廃合するというので、「国立横須賀病院」が閉院となり、横須賀市に移譲されることになりました。横須賀市という大きな市で、400床近い病院でしたので、非常に問題が大きいということで、横須賀市は引き受けるということになりました。

「うわまち病院」を横須賀市は直営していましたので、2つの病院経営は大変となり、現在私が所属している地域医療振興協会がそれを引き受けることになりました。私どもの組織の紹介ですが、公益社団法人地域医療振興協会といいまして、現在運営施設が29都道府県の84施設、全国に沖縄から北海道まであります。僻地の診療所、医療に恵まれないところに手を差し伸べるというのが基本的な考えでしたので、僻地の診療所や僻地の小さな病院から始めました。やはり、僻地医療で何が困るかということ、医師が足りない、看護師が足りない、つまり人が足りないということです。基幹型の臨床研修病院で医師を育て、病院を作らなければいけないということになりました。その第1号が「国立横須賀病院」です。基幹型で、資格を取りにくい臨床研修病院が廃止になるということで、それを引き継ぎました。臨床研修病院の資格というのは非常に厳しく、14年の7月に新しい病院に変わりましたが、医師確保にたいへん苦勞し、臨床研修病院の資格が取れないならば、また九州に帰るつもりで、眠れない夜も過ごした気がします。

現在、地域医療振興協会はその結果1万人くらいの職員で、約12%のドクターと約40%の看護師で構成されています。幸い順調に事業も成功しまして、現在、帝国データバンクのデータで収益は日本赤十字社が医療界で一番ですが、うちの地域医療振興協会は現在5位くらいの規模になりまして、利益でもいわゆる病院グループの中では4位くらいまで来ています。比較的安定した運営ができるようになりました。

「私たちは、優しい心、深い知識、高い技術をもって安全に配慮した、良質な医療を提供し、地域社会に貢献します。」を理念とし、①私たちは説明責任を果たし、医療の透明性を保つことで、安全な医療を受診者とともに築きます。②私たちは、救急・災害医療の充実に努めます。③私たちは診療連携に力を入れ、市民とともに地域医療を守ります。④私たちは、医療に従事する誇りとよろこびを持ち、勤勉であり、強い意志を持ち、進歩的で合理的な考え方に基づいた医療を提供します。⑤私たちは、自己の教育能力を高め、教育研修病院として将来の地域医療を担う人材の育成につとめます。を基本方針にして病院運営を行っています。



病院では反対意見や文句もありましたがマイクを使わず、直接患者様をお呼びし、対等な関係といえますか、直接お招きする形を取っています。できれば病院滞在は極力短時間にといいことで、テレビや雑誌も置いておりません。

私はもともと僻地で9年間赤十字病院の心臓の血管内治療を行うという仕事をやっていた人間ですので、心臓関係のことをいろいろやりました。心臓のリハビリテーションには力を入れて、講義や80~90%の方が自宅で心停止になっている現状でご家族に蘇生術を覚えていただいたほか、当然病気にならないことが大事なので、モデルカフェテリアを開いて皆さんに食事のことを知っていただくということを非常に早く始めました。運動を続けていただく、あるいは健やかな生活を続けていただくということで、年に2回、ハイキングの活動を始めました。途中から歩くだけでは面白くないので、リハビリテーションにゴルフも取り入れて行っています。心不全の方が非常に増えてきているということがありまして、心不全の方をフォーカス的に対応する、ハピネスハートプログラムという名前で、皆さんに認知していただいて活動を広げるといことをやっています。特徴は多職種のチーム医療で、各専門家が患者さんにいろいろな知識を与えて、そして長期にわたって心臓を守るということです。

我々は2004年に電子カルテルを導入しました。当時、電子カルテルを入れているのは初めてでしたが、大規模病院向けのものを入れました。なんとか成功したのを覚えています。

それから2004年にアドボカシー(擁護・代弁)室を設置しました。当時はアドボケイトとか患者さん側に立って医療サービス向上に貢献するというのはあまりなかったと記憶しています。我々は僻地治療のみならず医師の教育ということに力を入れておりましたので、基幹型研修病院としての教育には非常に力を入れました。CME:continuing medical educationずっと教育を受け続ける、学び続けることはできるのか。このシステムをどうするかということが最も重要なことでした。教育する側がずっと医療も教育を続ける、そういう方針で病院も行くということをやりました。その結果、我々が重視したのは教育の要として、いわゆる亡くなった方の解剖が最も重要だということです。最近ではAIといって亡くなった後にCTなどで原因を調べるというものもあります。防腐研はやはり、医師自体、あるいは看護師も含めた医療者自体が、患者さんにある程度納得、満足してもらわないと受けられないので、防腐研をきちんとできるというのは非常に大事な診療の評価の一つだろうと思っています。

これは日本内科学会関東地方会という学会ですが、「うわまち病院」は施設別3位、診療科別で1位という非常に多くの発表をしました。時代を変えるような大きな研究や発表するわけではないが、やはり、研修医とか若い人たちの勉強のためには非常に重要な学会であり、そこで非常に活発な活動をしました。私が2008年に、2015年には副院長の岩澤先生が内科学会の会長を務めることができました。その後、今度は救命救急の教育にも参加しました。病院の中の教育に力を入れていましたが、プレホスピタル病院より以前のところまで改善しないといけないということで、救命救急士の気管挿管訓練を病院で引き受けました。プレホスピタルで早く気管挿管できるようにするために救命救急士のトレーニングを行いました。

2002年にドクターカーを導入して、現場出勤も始めました。例えば心肺停止の患者さんの送迎に病院から15分かかるところ、救急車から連絡がくれば救急車に患者様を乗せて病院から中間地は7分30秒でドッキングできますので、この7分30秒も心肺停止の人には大事なのです。また、交通事故で車の中に閉じ込められて、車の中から外に出すまで非常に時間がかかる場合でもドクター出勤し、直接点滴をしたり、処置したりすれば非常に早く治療ができるということでプロホスピタルケアと一緒にそういうことにも貢献できました。それから、医療安全等の提供も行っており日経新聞の心臓病の内科治療部門のAAAを取得しました。全国で内科系は19病院で7位になり非常に古い病院の割には頑張っていたと思います。

「DPC機能評価ランキング」では2014年に20位まで行きました。また2008年に日本病院学会で私が診療連携の話で優秀演題の表彰を受け、この頃非常に調子が良かったです。2010年の4月に横須賀市から「横須賀市市民病院」の分野の委託も受けております。

私どもはこのような活動のほかにはTQMあるいはQCサークル活動も一生懸命やりまして、全国大会ではトヨタのカンバンなど他業種とも競って横須賀市病院の品質改善を行っています。2011年に取って以来、非常にたくさんの賞がもらえるようになって、2021年には世界病院学会で発表することもできています。それからもう一つ私どもの病院でやってきたのは、職員の教育研修の一環として海外研修留学の推進です。

「トマス・ジョファソン・ユニバーシティ」「アフリカン・ヘルスサイエンス・ユニバーシティ」「ユニバーシティ・オブ・ハワイ」の三つの大学と提携して留学を推進しています。

これまで大体23名、医師のみならずコメディカルやMEや薬剤師を1週間から2年くらいまでの海外研修を行っております。コロナですっとできなかつたのですが、今年は3名を送る予定です。ポルトガルでブラジル人医師の教育研修を行いましたがいまきませんでした。ブラジルの公用語は、ポルトガル語になります。ポルトガルというのは教育もわりとしっかりしている国で、ポルトガルでブラジル人医師を英語で教育して、そして日本語も勉強させて医者にして日本に送るという企画をしました。ポルトガル人は僕らより英語が上手で、小学校1年生から英語教育を始めていて、日本でも英語の教育を小学校からやるかどうかは大変だったと思いますが、やはりある時から行うようにしてみた方が良かったのかなと思った記憶があります。

東日本大震災も救援しました。韓国人の大卒のN1（日本語検定1級）を取った優秀な看護師確保も行っており、5名の韓国人看護師を韓国に行き募集し、2名が実際に応募してくれました。ですがこの5名のうち3名が来なかった理由は、大震災で日本の放射能の問題で親御さんが許さないということでした。それから2013年に救命救急センターに認定されました。私どもの救命救急センターの充実度評価は非常に高く、S評価で300ぐらいある救命救急センター中30位くらいにあります。S評価は私ども「うわまち病院」と「湘南鎌倉病院」が2014年に自治体立優良病院の表彰を受けました。2014年は「うわまち病院」と横須賀歯科医師会との連携も行いました。それから神奈川県地域周産期母子医療センターに認定されて、その翌年に自治体立優良病院総務大臣表彰を受けました。市役所の方から褒められまして、それはそれですごいと思いました。

働き方改革も一生懸命やっています。最近では職員の産休育休取得率も非常に上がりまして、男性職員も育休を取るという時代にもものすごく変わってきました。コロナにも非常に貢献したと思っています。特に重症小児コロナ患者は横須賀市外からも受け入れました。私どもの病院では最初の頃クラスターが出たということで風評被害を受け、大変な思いをしたこともありましたが、そういう中で全職員がいろいろな立場から頑張ってくれました。

【新しい病院のプロモーションビデオ映像】



どうもご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 萩原 英恵